



口蹄疫の畜魂碑にて

- ◎お茶の産直施設 峠の里を見学
- ◎鶏糞を燃焼させ発電する施設を見学
- ◎両町議員意見交換会を実施

日時：平成25年2月10日(日)～12日(火)
 場所：宮崎県児湯郡川南町川南町文化ホール、総合運動公園(多目的運動場)、川南漁港(通浜)、口蹄疫畜魂碑、切原ダム、峠の里、MBR、東九州自動車道川南PA
 派遣議員：栗崎千代松議長、竹元孝夫議員、青山英樹議員、鈴木隆司議員、佐藤幸市議員、薄葉好弘議員、加藤宏樹議員、安井敬博議員

視察・研修

日本三大開拓
交流地への議員研修

主な視察内容

- ◎魚市場の水揚げとセリの見学
- ◎口蹄疫で殺処分された家畜の畜魂碑を視察
- ◎川南町町制施行60周年記念式典に参加
- ◎屋根付多目的運動場の竣工落成式典に参加
- ◎片側一カ所上下線乗り入れのPAを視察
- ◎完成したばかりの「切原ダム」を視察

調査報告

議会運営委員会

日時：平成25年1月21日(月)～22日(火)
 場所：茨城県茨城郡大洗町議会
 派遣議員：大木義正委員長、藤井精七委員、熊田宏委員、鈴木一夫委員、薄葉好弘委員

大洗町議会における議会運営及び活性化等について

改正に伴い、通年議会制や政務活動費等の具体的取り組みについて今後検討する必要があるとあります。

一方、議会運営については休止することなく、毎定例会の運営等を審議しており、会議の公平で公正な運営に努めていく必要があります。

そのためにも、地方自治法の一部改正等も視野に入れつつ、必要に応じ改革が実現できるものから実施するべきとの認識に立ち、今回議会外付託調査として、茨城県町村議会議長会の推薦のあった大洗町議会を訪ね、現地研修を行いました。

大洗町議会は、6年前の議長選挙を契機に、積極的な議会改革を進め、最終的には「大洗

町議会基本条例」の制定を経て、議会報告会の開催及び一問一答方式の導入、議員報酬の実質的引上げ等先進的に実施しております。特に、町民に対する議会傍聴への働きかけには感心させられました。

町民の主な所に質問議員の名前、質問する内容、予定時間を印刷した案内広告を掲示するとともに、質問議員による「ダイレクトメール」の発送により、傍聴者数の増加に努めております。

また、傍聴者のアンケートへの回答を頂いて、議会の活性化の参考にする等、議会改革に積極的に取り組んでおり、矢吹町議会として学ばべき点が多くありました。

今後の議会改革及び議会運営委員会の在り方について、改革すべ

きは積極的かつスピード感を持ちながら実現すべきとの認識を新たにいたしました。

次に、茨城県の地域活性化をリードする事例として「鹿島港の洋上における風力発電事業」について視察研修を実施しました。

事業者である株式会社ウインドパワーを訪問し、事業概要の説明を受けるとともに、風力発電施設も視察して来しました。

特徴としては、地元茨城県内の企業である事。国内初の本格洋上風力発電所で風車を7基直列に設置し、その後8基を追加設置した。

現在商業ベースの採算性も確保されている。また、地元である株式会社日立製作所と富士重工業株式会社の共同開発により開発された国内最大規模の大型風車との説明でした。

調査報告

議会広報委員会

日時：平成25年2月7日(木)～8日(金)
 場所：埼玉県八潮市
 派遣議員：熊田宏委員長、竹元孝夫副委員、藤井精七委員、柏村栄委員、加藤宏樹委員、佐藤幸市委員

八潮市における議会だより編集の状況

今回の研修では、市議会広報編集委員会の広報の編集方法、着眼点、市民への啓発策等について調査し、研修を通して相互交流を行いました。
 同市は現在、広報の配布を新聞折り込みにより行っており、紙面構成から印刷業務まで

を新聞社への委託により行っている、タブロイド版により発行していません。以前は、町内会(行政区)により配布していた経緯がありますが、全戸に回るまでに2週間程度の日数が必要であり、町内会に加入していないと届かないことから、新聞折り込みに変えたとの事でありました。毎回、発行時に委員会でもマを協議し、それを新聞社に伝えて、出来てきたものを確認するという工程であり、編集委員会の作業時間は、本町ほど多くないとの事でした。
 また、広報誌の表紙については、委員長がテーマにあわせて写真を撮り、記事にあわせてイラストを織り込んでいるとの事で、合理的な広報誌の発行を行っていました。

量的な広報誌の発行を行っていました。タブロイド版は、大量の情報が載せられるため、年間を通しての様々な話題を議会広報誌に折り込み、議会活動と融合させることにより市民に親しまれるような形で編集されてきました。
 例えば、近年開通した筑波エクスプレスの開業により、浅草まで10分という利便性が備わり、徐々に若年人口の増加と東京のベクトル・タウンとしての存在が街に賑わいを創出してきている事、一昔前の田圃と畑の風景から急激な変化の途上にある事等を前面に押し出している事があげられます。

人は、インフルエンザにより欠席)を招き、同行した議員一人ひとりより、感謝の気持ちで派遣いただいた職員に伝え、労をねぎらいました。
 派遣職員からの感想として、「指名されたときは、矢吹町がどこにあるのかすら分からなかったが、町の人達と交流が出来て、良い思い出になった。」「震災の家屋調査等貴重な経験が出来た。」と話しておりました。
 また、2日目に東京都墨田区復興記念館を見学して来ました。これは、委員会での研修協議の中で、今後の福島県の復興を考える上でも、(※1)関東大震災の惨禍を後世に伝えるべく建築された『復興記念館』を視察する事で参考になるのではないかと考えたから今研修の中に織り込んだ

ものです。

会館は、セピア色の写真の大惨事と火災により焼けただれた家具家電製品が展示されており震災の悲劇を感じ、震災に対する備えと人間の絆がいかに大切かと思いつつ議員一同復興に取り組む姿勢を新たに帰りました。全てに意義深い研修会でありました。



※1 関東大震災は、大正12年9月1日の午前11時50分、突如として大規模な揺れが発生し、死者9万9千人、負傷者10万3千人、行方不明者4万3千人、倒壊家屋12万8千戸の被害を東京の下町にもたらしました。



仮置場調査

日時：平成25年3月26日(火)
 場所：柿之内、田内地区
 派遣議員：鈴木隆司委員長、藤井精七副委員長、安井敬博委員、加藤宏樹委員、薄葉好弘委員、佐藤幸市委員、青山英樹委員、竹元孝夫委員、鈴木一夫委員、大木義正委員、熊田宏委員、角田秀明委員、柏村栄委員、諸根重男委員、栗崎千代松委員

大震災及び原発事故
 故調査特別委員会